

VIEW21

ビュー21

2014

Vol. 3

中学版

PDF版では表紙写真を公開しておりません。ご了承ください。

特集

学びの質を高める 家庭学習指導

オピニオン 日本女子大 人間社会学部教育学科 准教授 瀬尾美紀子

学校事例 秋田県 大仙市立協和中学校 / 新潟県 燕市立小池中学校
兵庫県 篠山市立篠山東中学校



私を育てた
あの時代、あの出会い

苦しくても生徒と向き合い続ける 初任校でその大切さを学んだ
神奈川県 横浜市立霧が丘小中学校 校長 酒井 徹

Benesse発
これからの教育

教員1人1台のタブレットで広がる授業の工夫 北海道 札幌市立陵北中学校

ミドルリーダーの挑戦
一前へ! 前へ!!

現状に満足することなく、常に向上心を持ち、周囲から学び続ける
長崎県 長崎市立西泊中学校 角家理恵子

特集

3 学びの質を高める
家庭学習指導

4 課題整理

学力層によって異なる学習への意識

5 オピニオン

自律的な学習習慣と
確かな学力の定着を促す学習方略とは

日本女子大 人間社会学部教育学科 准教授◎瀬尾美紀子



8 学校事例1

全教員指導、提出免除などで
自学ノートの質に踏み込む

秋田県 大仙市立協和中学校



12 学校事例2

下校前15分間の「長善タイム」で
授業と家庭学習の連動を強化

新潟県 燕市立小池中学校



16 学校事例3

予習を前提とした「反転授業」で
授業理解度と教員の授業力が向上

兵庫県 篠山市立篠山東中学校



連載

1 私を育てたあの時代、あの出会い

苦しくても生徒と向き合い続ける 初任校でその大切さを学んだ

神奈川県 横浜市立霧が丘小中学校 校長◎酒井 徹

20 Benesse発 これからの教育

教員1人1台のタブレットで広がる授業の工夫

北海道 札幌市立陵北中学校

22 ミドルリーダーの挑戦 —前へ!前へ!!

現状に満足することなく、常に向上心を持ち、周囲から学び続ける

長崎県 長崎市立西泊中学校◎角家理恵子

24 読者のページ Reader's VIEW / 編集後記

*本文中のプロフィールは全て取材時のものです。
また、敬称略とさせていただきます
*本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます

私を育てた
あの時代、あの出会い

第19回

苦しくても生徒と向き合い続ける 初任校でその大切さを学んだ

神奈川県 横浜市立霧が丘小中学校 校長 酒井 徹 SAKAI TOHRU

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で生徒を育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、酒井校長が語る。

とにかく学校に長くいよう
その意志に賛同した同僚

私が教員になった頃は、全国的に学校が荒れていた時期でした。初任校でも指導の難しさに疲弊し、全教員15、16人のうち、毎年5、6人が希望して異動する状況でした。多くの先生が在任期間が3年程と短く、教員と生徒・保護者との信頼関係が築けないために、状況が改善されないことは新米の私の目にも明らかでした。ならば、自分とはかく学校に長くいようと思ったのです。「苦しいからといって放棄したら教育にはなら

ない」。その決意を同期の岩本博光先生に打ち明けると、「自分もそう思っていた」と賛同してくれました。

私たちはまず校内を常にきれいに保つことにしました。ペンキやモルタルを常備し、汚れや穴はすぐに直していったのです。また、悪いことは悪いと、生徒に毅然と注意しました。何度同じことをされても、何度反抗されてもです。ただ一方で、生徒を追い込み過ぎないことも意識しました。開き直られたら、教員のどんな声も生徒には届きません。実際、とことん追及し、白黒をはっきりさせようとしたところ、「もうどうなっ



さかい・とおる 専門教科は理科。大学の卒業研究で実験結果に納得できず、大学院に進学して研究を続行。修士課程修了後、教員となる。横浜市立寛政中学校・本郷中学校では、通算12年間、生徒指導主事を務める。

- 1982 (昭和57)
横浜市立寛政中学校に新採で赴任。橋本隆校長、岩本博光先生と出会う。赴任中最後の4年間は生徒指導主事を務める
- 1992 (平成4)
横浜市立本郷中学校に赴任。うち8年間は生徒指導主事を務める
- 2001 (平成13)
横浜市教育委員会指導部で児童・生徒指導担当指導主事に着任
- 2006 (平成18)
横浜市立錦台中学校に副校長として赴任。2008年同校の校長に
- 2011 (平成23)
横浜市教育委員会指導部で人権教育・児童生徒課長に着任
- 2014 (平成26)
横浜市立小中一貫校霧が丘小中学校に校長として赴任

てもいい！進学も諦めたし、俺は好きにやる！」とすさんでしまった生徒がいました。そうした経験から、疑わしい生徒からも言い訳は十分に聞き、逃げ道だけは残しておこうと意識しました。その結果、生徒自身の内省で歯止めが掛かったと思われるケースが増え、生徒と教員の無用な衝突がなくなりました。

教科指導にも力を入れました。当時の橋本隆校長は「苦しい時こそ授業を充実しよう」と言われ、私に「生徒の注目を集めたい時の自分なりの『キュー（合図）』を持つ」と助言してくれました。理科担当の私は、ここぞという場面では色が変わるものや音が出るものなどを見せ、生徒を授業に引き付けるように努力しました。

そのように、一人ひとりの教員が指導の工夫を積み重ねていくうちに、教員間の仲間意識が高まり、学校に残る教員も増えていきました。保護者や卒業生から「兄ちゃんが世話になった先生の言うことは間違いない」「あの先生は信じられる人だ」と弟妹や後輩に伝わるようにもなりました。そうして、10年間居続けた私が異動する頃には、生徒たちは落ち着き、学力も大きく向上していきました。

「ナナメの関係」が子どもたちの成長を促す

その後、再び生徒指導が難しい学校に赴任した時のことです。問題を起こした生徒が、校長の私に「家族への不満」「学習への自信の無さ」を打ち明けてくれました。学習面はいくらでも協力できると個別補習を提案すると、早朝7時半から校長室に来て、数学に取り組み始めました。

問題が解けた際に私が「すごいな」と褒めていると、いい笑顔を返してくれました。すかさず「やれば出来るのだから、授業にもしっかり出るんだぞ」と言うと、いつもの頑なな態度はなく、素直にうなずいたので、分からないことが分かった時は誰でもうれいもの。しかも、普段接する機会の少ない校長から認められたことで、生徒は心を開き、受け止められたのでしよう。厳しいだけでは思いは伝わりません。誰が注意するか、いつ伝えるかが重要なのだとつくづく感じました。

今年度、私は小中一貫校の校長に着任しました。小中の文化の違いはありますが、子どもも教員も交流し、互いの理解を深めながら、合同の活

「生徒の心に響かせるには伝えるタイミングも大切」



動を少しずつ増やしています。「学校探検」では、小学1年生が中学校の授業を見学しました。生徒は小学生の視線を感じ、中学生としての自覚を持って授業に取り組んでいました。合同の集会では、生徒会・児童会の発案で一緒にレクリエーションをしました。退場時、小学生とハイタッチをし、笑顔で「ありがとう」と言われた生徒はとてうれしそうでした。また、小中の特別支援学級の児童生徒と一緒に行った芋掘りでは、中学

校生活に自信のなかった生徒が、芋のある場所を教えてあげた小学生に大喜びされ、以降、積極的に参加するようになりました。このように、いつもとちよつと違う「ナナメの関係」が、子どもの成長を大きく促すのです。「良いと思ったことはどんどん提案し、無理のないようにやっつけていこう」。本校の合言葉です。小学校の授業も毎日見て回り、自ら溶け込んでいくことで、先生方を支えていきたいと思えます。

学びの質を高める

家庭学習自指導

自学ノートを活用した家庭学習習慣定着の取り組みが
 広まっていることもあり、

ベネッセ教育総合研究所「第2回 放課後の生活時間調査」(下図)によると、

中学生の家庭学習時間は増えている。一方、先生方からは、

「自学ノートのページを埋めることに注力してしまう生徒もいる」

「時間の掛かる難問への挑戦を避ける傾向が見られる」

といった声も聞かれた。

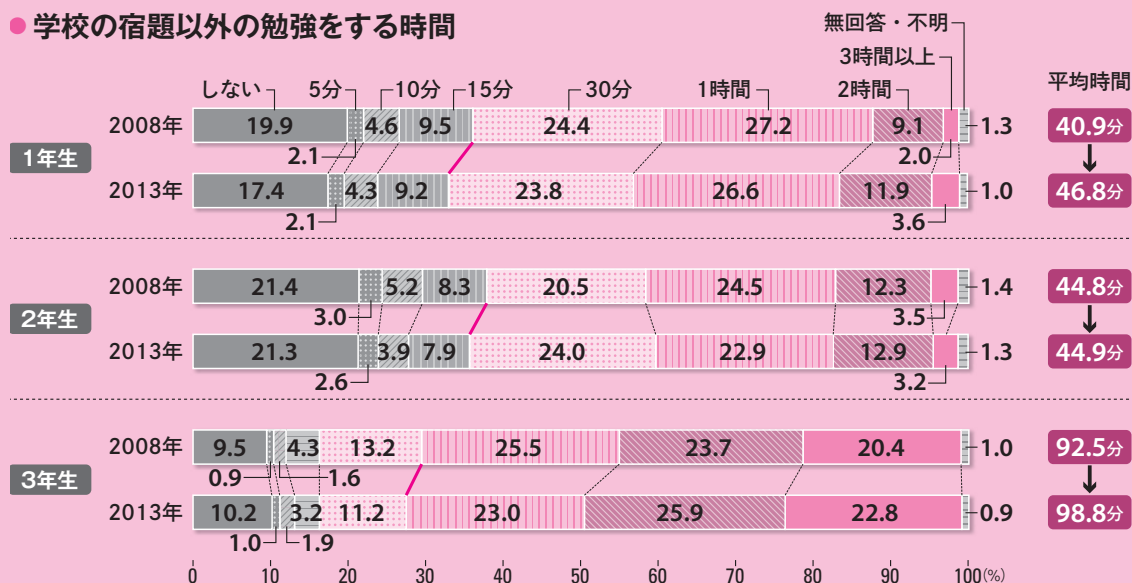
家庭学習を学力向上に結び付く質の高いものにするには

どのような指導をすればよいのか。

研究者へのインタビューと学校事例から考えていく。

家庭学習の平均時間は増加傾向

● 学校の宿題以外の勉強をする時間



注1) 「3時間以上」は、「3時間」～「4時間より多い」の%

注2) 平均時間は、「しない」を0分、「4時間」を240分、「4時間より多い」を300分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した

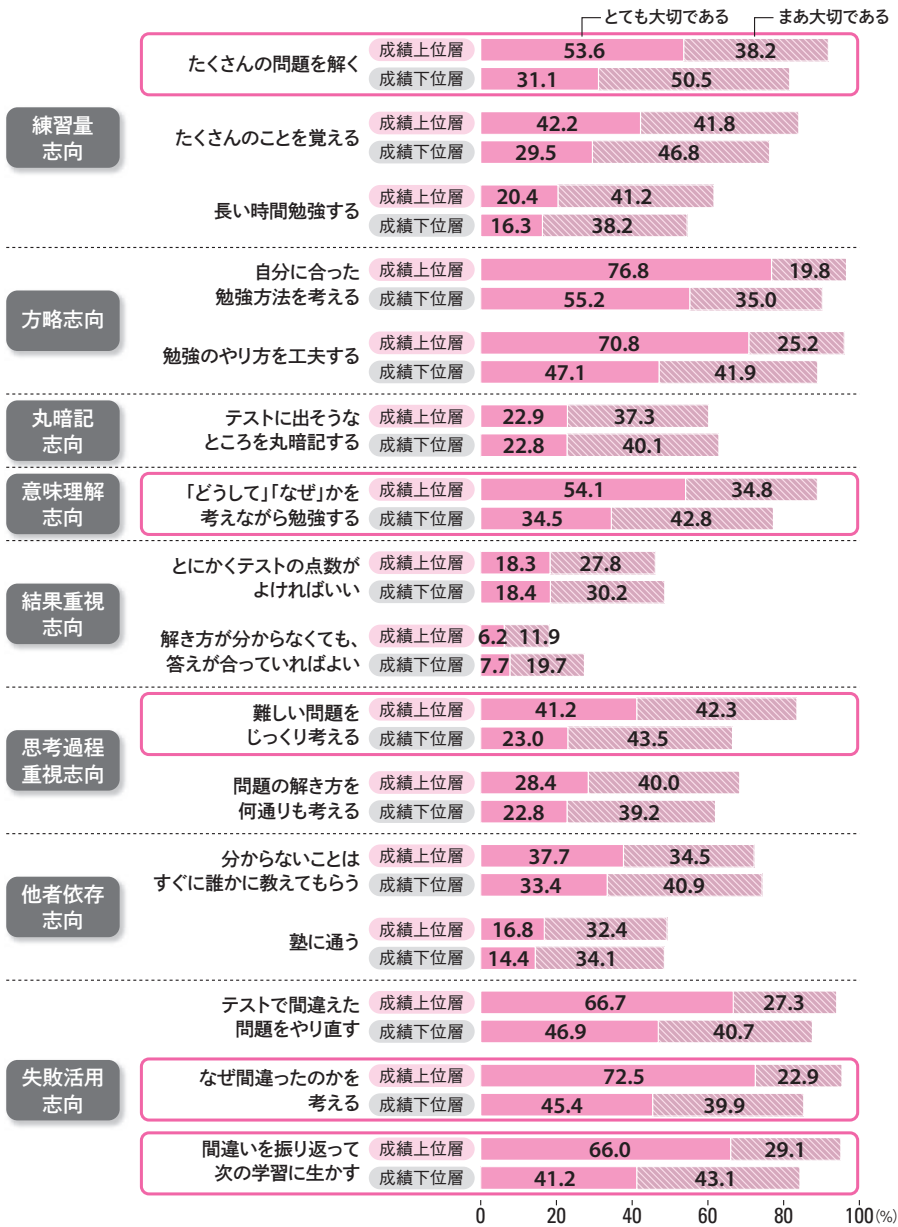
出典/ベネッセ教育総合研究所「第2回 放課後の生活時間調査」(2013年11月実施。全国の小学5年生～高校3年生合計8,100人。うち中学生の有効回答数は3,282人)

学力層によって異なる学習への意識

ベネッセ教育総合研究所が実施した調査を基に、成績上位層と成績下位層とでは、学習に対する意識(学習観)が、どのような点で大きく異なるかを見てみよう。

図 成績上位層ほど、振り返りを重視

Q.勉強について、次のようなことはどれくらい大切だと思いますか? (中学1・2年生)



注) 学習観に関する分類は、東京大学の市川伸一研究室で開発された尺度を参考にしているが、「環境設定志向」にあたるものは内容・名称を変更して「他者依存志向」とした。また、それぞれの志向の質問項目は、ベネッセ教育総合研究所で作成したものである

出典/ベネッセ教育総合研究所「小中学生の学びに関する実態調査」(2014年2~3月実施。全国の小学4年生~中学2年生の子どもとその保護者。親子で各5,409人。うち中学生の有効回答数は1,959人)

成績上位層と成績下位層で、学習に対する意識の差が10ポイント以上あったのは、差が大きい順に「難しい問題をじっくり考える」「『どうして』『なぜ』かを考えながら勉強する」「間違いを振り返って次の学習に生かす」「たくさん問題を解く」「なぜ間違ったのかを考える」であった。

演習段階では、難しい問題にもしっかり取り組み、その解答が間違っていた場合は、答え合わせの時になぜ間違えたのかをきちんと振り返り、次に同じ間違いをしないようにすることが、学力に影響していると言えそうだ。

自律的な学習習慣と 確かな学力の定着を促す学習方略とは

日本女子大 人間社会学部教育学科 准教授 瀬尾美紀子

ベネッセ教育総合研究所の調査によると、「学習時間は平均より長いが、成績は下位層」という生徒が約12%もいた。単に学習時間を掛けさえすれば学力が上がるというものではないことは明らかだ。では、効果的な学習方略とはどのようなものなのか。自己学習力の向上と学力の定着について研究し、中学校現場で「学習法講座」も実践している日本女子大の瀬尾美紀子准教授に聞いた。

単に机に向かうだけでなく、自学を確実に学力に結び付けるためには、効果的な学習方略を身に付けることが不可欠です。しかし、研究結果からは、そうした学習方略はなかなか使われておらず、そもそも「どのような方略が有効か認識していない」といった実態が浮き彫りになっています。学習の質を高め、学力向上につなげるための効果的な学習方略を3つのポイントに絞ってご紹介します。

ポイント1 精緻化方略

**情報を付加しながら記憶することで
学習事項の定着を促す**

ポイントの1つめは、学習内容の定着（記憶）に関する「精緻化方略」です。後から思

い出しやすい記憶として学習内容を定着させるためには、情報をより豊かにすること（精緻化）が有効だと言われています。「思い出したい情報」に「複数の別の情報」が付加されていると、記憶の検索時に複数の検索ルートが確保され、思い出しやすくなるのです。

具体的な方法として、第1に理由や根拠を調べたり考えたりしてまとめることが挙げられます。例えば、1年生の社会科「世界の地域と住居」に「アンデスの伝統的な住居は日干しレンガや石で出来ている」という事項があります。これを丸暗記するのではなく、「アンデスは高山のため材料である木材が乏しいから」「レンガや石は高山でも手に入れることが出来るから」など、理由と一緒に覚える

日本女子大 人間社会学部教育学科 准教授
瀬尾美紀子

せお・みきこ ◎東京大大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。博士（教育学）。専門は教育心理学、認知心理学、数学教育。共著に『学力と学習支援の心理学』（放送大学教育振興会）、『算数・理科を学ぶ子どもの発達心理学』（ミネルヴァ書房）など。



と、記憶が定着しやすくなります。

第2は、自分が思ったこと、感じたことを

加えることで情報を豊かにする方法です。例えば、比例が出てきた時に「小学6年生の時にも習ったけれど、その時とは定義が違う」など、気付いたことをノートに書き加えておくのです。そうすると「何が違うのだろう」というような意識が芽生え、授業への構えも変わってきます。「驚いた」「よく分かった」という感想ではなく、学習内容にかかわること、あるいは既習事項と関連させて、気付いたことや感じたことを自分の言葉や図表で具体的に書いておくことが大切です。

ポイント 2 教訓帰納

思考過程を振り返ることでケアレスミスを減らし、応用力の基盤を作る

ポイントの2つめは、正答や誤答の原因を振り返り、次に誤答しないための教訓を言語化する「教訓帰納」です。間違いの原因を分析することで、ケアレスミスを減らしていくことが出来ます。また、次に正答するための方法（ポイント）を考えることで、さまざまな問題への対応力が身に付きます。

先生方の多くは、テストの振り返りで「間違いやすい点はどこか」「その克服のために何がポイントか」を伝えていると思います。しかし、答え合わせをする時に、約7割の生徒が「○×を付けるだけ」「解答解説を見るだけ」という状況を示した調査結果も報告されています（瀬尾ら、2013）。

図 振り返りの方法（教訓帰納）の一例

$$(1) \frac{3x-y}{2} - \frac{x-4y}{4}$$

$$= \frac{6x-2y-x-4y}{4}$$

$$= \frac{5x-6y}{4} \quad \times$$

✗ 効果的ではない教訓

しっかり計算する

○ 効果的な教訓

通分する時は、分子全体にかっこを付ける

$$= \frac{6x-2y-(x-4y)}{4}$$

$$= \frac{5x+2y}{4}$$

部活動では、試合に負けた後、なぜ負けたのかを皆で話し合っって分析し、それを踏まえて今後の練習方針を考えると、同じことを学習場面でも行うことが、学力を高める鍵になります。そのことを生徒たちになり伝えていく必要があるのです。

右図は、振り返りの方法の一例です。通分時に分子全体に括弧を付けるのを忘れ、4yの符号をマイナスで処理したために間違えています。このとき、「しっかり計算しよう」だけでは抽象的過ぎます。「通分する時は分子全体に括弧を付けよう」など、具体的に行動できるように言語化することが重要なのです。次に同様な問題が出た時に、正確な処理が実行できる可能性が高まるわけです。

ここでも大切なのは、「できるだけ自分の

言葉で書く」ことです。「分配法則が使えるかを考える」「二次関数の図を大きく描くようにする」など、具体的に自分の言葉で書いておくことで、同じような状況に対して応用できるようになります。ただ、生徒が初めから1人で書くことは難しい場合が多いので、初めのうちは先生の板書や説明、参考書の説明などを参考にするとよいでしょう。その際、出来るだけ生徒自身が先生の言葉を、自分の間違いに引き付けて言語化することが大切です。思考過程を振り返らずに丸写しするだけでは、自分の教訓として生かすことは難しいでしょう。言語化に慣れてきたら、初めから自分で考えたり、書かせたりするようにしていくとよいでしょう。

ポイント 3 計画立案と振り返り

自分で学習計画を立て、振り返ることで学習の自己調整力を身に付ける

ポイントの3つめは、家庭学習全体を生徒自身に計画させ、更に実行後の振り返りを求めることです。自分で決めた計画だからこそ責任を持って取り組もうとする意識も芽生え、より自律的な学びへ発展していきます。

まず授業で分かったこと、分からなかったことを振り返り、その日の家庭学習で取り組む内容を考えます。加えて、学習が終わった後に家庭学習自体の振り返りまで行うと、より効果が上がるでしょう。「どのくらい達成

学びの質を高める家庭学習指導

できたか」「分からないところはどこか」を明確にし、次の授業で注意するポイント、先生や友だちに質問する事項を整理して書き出します。こうした取り組みを継続することで、学習を自分で自己調整する力が身に付いていきます。また、授業と家庭学習とが連携して捉えられるようになります。

先生方が家庭学習のノートを見る際に、学習方略という観点からフィードバックをすることも、学びの質を高める上で大切です。担当教科以外のノートでも、以下の観点に基づいた指導が可能ではないでしょうか。

◎黒板や教科書の丸写しではなく、自分の言葉で書こうとしているか

◎理由や根拠、自分の気付きが書けているか

◎学習事項の関連性を考えてまとめているか、それらを表や図を用いて整理しているか

このように、有効な学習方略を使っているかという観点から具体的にアドバイスすることによって、学びの質を高めていくことが期待できます。

【参考文献】

瀬尾美紀子・赤坂康輔・植阪友理・市川伸一（2013）「学習をふり返る力―「教訓帰納」を促す中学校教育プログラムの開発と実践― 植阪友理・Umanuel Manato（編著）心理学から見た効果的な学び方の理解と支援 科学研究費補助金 基盤研究B「学習方略の自発的利用メカニズムの解明と学校教育への展開」平成24年度報告書
瀬尾美紀子（2014）「学習の自己調整 市川伸一（編著）学力と学習支援の心理学（pp.47-64）」放送大学教育振興会

実践編

「学習法講座」で「学び方」を学ぶ

今回、紹介した学習方略は、効果が高い反面、負荷の掛かる作業でもあります。「効果はありそうだけど面倒くさい」「使えるのは頭が良い人だけ」と思う生徒もいることでしょう。生徒が継続的に方略を使えるようになるためのポイントは次の3点です。

- ① 学習法が有効だと感じる「体験」をする
- ② その方略が有効である理由を「理解」する
- ③ 使える見通しを持つために「練習」する

ここでは精緻化方略に関する学習法講座について、ある中学校での実践例（瀬尾ら、2014）を紹介します。

①の「体験」として、まず「○○な男が××をしていた」という、8つの文を記憶する課題に取り組みます。「長髪の男はゴム手袋を探していた」「眠い男は、水差しを持っていた」というカードを続けて見せた後、「長髪の男ははさみを買った?」というように、どんな男が何をしていたのかを○×形式で回答させたところ、多くの生徒はいくつか間違えました(クラス平均は8点満点中6・21点)。

次に「もつと確実に記憶して、正解率を上げる方法を説明します」と話し、長髪の男がゴム手袋を探していたのは「髪の毛を染めるため」というように理由を付けると覚えやす

いことを説明、精緻化方略を紹介します。同様に他の文についてもクラス全体で理由を考えた後、「眠い男は何をした?」と男の行動を選択させる少し難しい形式の事後テストに取り組みました。すると、ほぼ全員が満点(平均は7・93点)になり、生徒たちは驚いた様子を見せていました。

その後、②の「理解」として、情報を豊かにするほど長期記憶は確かなものになるという理論の説明を行い、③の「練習」として、今回はP.5で紹介した社会科の「世界の地域と住居」に関する学習事項(既習)を扱いました。事前テストではほとんどの生徒が忘れていましたが(平均は5点満点中1・72点、理由とセットで覚える練習を行った後に確認テストを行った結果、ほとんどの生徒が満点となりました(平均は4・48点)。事後アンケートでは、9割を超える生徒が、精緻化方略について「効果がある」「自分も取り入れようと思う」と回答しています。

「学習法講座」によって学習方略が有効なものであり、使ってみようという意識が高まります。その後も授業の中でも使ったり、自習ノートのチェック時に促したりと、継続的に働き掛けることで生徒に定着していきます。

全教員指導、提出免除などで 自学ノートの質に踏み込む

秋田県 大仙市立協和中学校

協和中学校では自学ノートのチェックを学級担任だけでなく、管理職や部活動顧問を含めた全校体制で行い、家庭学習の質を高めようとしている。2013年度からは、定期考査の上位者などに対して提出を免除する制度を行い、「やらされる勉強」から「主体的な学び」への転換も図っている。

「ヒトベンノート」の工夫①

管理職も含めた全校体制で 自学ノートをチェック

大仙市立協和中学校では、生徒の家庭学習を促すために自学ノート「ヒトベンノート」を毎日2ページ課している。学習内容は、生徒自身で考えるため、漢字や英単語の反復練習、重要語句や教科書の要点まとめなど、生徒によってさまざま。ノートは翌朝に提出し、「字が乱雑でないか」「漢字や単語に間違いはないか」「簡単な問題にばかり取り組んでいないか」などを教員が確認し、コメント

や押印をして、当日中に返却する（写真1）。同校では、生徒に自ら学ぶ学習を促すと共に、知識が身に付いているかどうかにも徹底的にこだわり、「ヒトベンノート」の取り組みにさまざまな工夫をしている。

まず、ノートのチェックは、学級担任だけでなく、学校全体で行っている。月曜は学級担任以外の学年団の教員、火・金曜は学級担任、水曜は部活動顧問、木曜は校長・教頭・教務主任の持ち回り制だ。学校全体でのチェック体制としたのは2011年度からだ。3学年主任の佐々木知子先生は、持ち

School Data

◎1975（昭和50）年に開校。2006年度に文部科学省の「キャリア教育実践プロジェクト」指定校となって以降、キャリア教育に力を入れる。更に、地域防災ボランティア、介護施設訪問などを行い、地域との交流を深めている。



校長◎藤本竜伸先生

生徒数◎160人 学級数◎7学級（うち特別支援学級1）

所在地◎〒019-2411 秋田県大仙市協和境字岸館90

TEL◎018-892-3025

URL◎<http://www.edu.city.daisen.akita.jp/~ky-kyoutyu/>

公開研究会◎未定

回り制の意義を次のように説明する。

「自分の担当以外の教科は、その中身を深く見ることまでなかなか出来ません。学習の質にまで踏み込んだ指導をするために、月曜は学級担任、火曜は国語科担当というように、複数の教科担当が見るようにしていました。生徒も見えてくれる先生の教科に合わせて学習に取り組み、質問を書く生徒もいました」

学年団の持ち回り制に、管理職を加えたのは生徒に学習への緊張感を持たせるため、部活動顧問は学習と部活動との両立を生徒・教員共に意識させるためだ。また、学級担任は生徒の生活記録ノートも毎日見るため、「ヒ

学びの質を高める**家庭学習指導**



写真1 机に積み重ねられた「ヒトベンノート」をチェックする教員。ノートは係の生徒がまとめてカゴに入れ、その日の担当教員に持参する

トベンノート」のチェックを学年団以外にも広げ、学級担任の負担を減らすという目的もあった。特に、月曜は生活記録ノートが週末3日分にもなるため、「ヒトベンノート」は学級担任以外で見られるようにしている。

いろいろな先生からのコメントが 生徒の学習意欲を喚起する

生徒にとっては、いろいろな先生からのコメントが学習の動機付けにもなっている。例えば、部活動顧問の場合、勉強と部活動との両立の指導を始め、日常生活の心構え、前の試合での活躍など、学級担任や管理職とは違った観点から生徒に語り掛ける内容が多いという。野球部のキャプテンを務める3年

生の男子生徒は、「顧問の先生は『力尽きてはダメだ、しっかりやれ』というように、部活動とセットでコメントしてくれることが多く、励みになっています」と話す。

顧問の教員も「部活動の前にはまず勉強」という意識が強く、「ヒトベンノート」の提出を練習参加の条件にする部もある。野球部顧問の鈴木良二先生は、次のように話す。

「中学生の自分は勉強だという話を練習中にもよくします。夏休み中でも、『ヒトベンノート』の2ページ分を提出してから練習に加わるように指導しています」

ノートの書き方が多少雑な時があっても、「昨日は練習試合だったから仕方がない」と理解を示し、それとなく励ましのコメントを書けるのも部活動顧問ならではの視点だ。

藤本竜伸校長は、日替わりでチェックする意義について、「担任だけではいつも同じようなコメントになりがちですが、複数の先生が見れば、コメントの内容も多様になり、生徒にいろいろなもの見方を示せます。更に、多くの先生に見守られている、応援されているという安心感も湧くことでしょう」と語る。他の教員のコメントを見られることは教員自身にも刺激になると、佐々木先生は言う。「他の先生が立派なコメントを書いているのを見ると、プレッシャーを感じます(笑)。でも、同じ生徒についてもさまざまな見方があることが分かり、勉強になります」



大仙市立協和中学校 校長
藤本竜伸 ふじもと・りゅうしん
「微笑んでほしいけれど、まず微笑むことさ」の歌のように、望む前にまずは自分から働き掛けたい」



大仙市立協和中学校
佐々木知子 ささき・ともこ
3学年主任。英語科担当。「自分自身が学習者であるという意識を常に忘れない、生徒の前に立っていたい」



大仙市立協和中学校
鈴木良二 すずき・りょうじ
1学年主任。保健体育科担当。「初志貫徹」をモットーに、目標を持って成し遂げられる生徒を育てたい」

「ヒトベンノート」の工夫② ノート内容の個別テストで 自学の意味を問い掛ける

「ヒトベンノート」の指導は、入学直後に藤本校長が自学自習の方法を教えるところから始まる。説明後、教室で30分間、自学自習に取り組むと、藤本校長が生徒一人ひとりのノートを点検する。そして、取り組んだ内容について個別に簡単な試問をし、生徒が答えられなければもう一度ノートに取り組ませて再度試問を行う。「ヒトベンノート」の目的は、ただノートを文字で埋めるのではなく、学習内容をきちんと身に付けること、ノートではなく頭に書くことが大切だと、入学時から生徒に植え付けるためだ。

藤本校長によるノートテストは、その後も前・後期1回ずつ、1・2年生全員に対して行われる。また、日々のノートチェックでも、習得があやふやそうな場合には、給食時に教室を訪れ、問題を書いた付せんを渡し、昼休みに目の前で答えを書かせる。「挨拶」という漢字は書けるか」「徳川家康は何をした人か」など、本人のノートの内容から2、3問を出題し、不正解の場合は翌日、また本人のノートの内容から別の問題を課す(写真2)。

「部活動などで疲れていると、どうやって2ページを楽に埋めようかと考える生徒も出てきます。『ヒトベンノート』の形骸化を防ぐために、抜き打ちチェックという関門を設けているのです」(藤本校長)

校長が教室まで来てテストをするからといって、生徒たちに特別な緊張感はない。他の生徒が見守る中、生徒は一喜一憂しながら真剣に取り組むという。

●「ヒトベンノート」の工夫③

もつと上を目指してほしい 成績上位者はノート提出を免除

「ヒトベンノート」は生徒の学習習慣の定着、教員の生徒把握に効果を上げているが、現状では必ずしも主体的な学習姿勢を養う取り組みにはなっていないと、藤本校長は言う。「本校のモットーは『大志行深』^{たいしぎょうじん}です。夢や将来を描いて大志を抱き、自分で考え、行



写真2 問題演習で全問正解している場合には、本当に「解けるか?」、単に反復練習をしている場合や要点をまとめている場合には、本当に「書けるか?」「覚えているか?」をノートテストで確認している

動する自立した人間を育てるのが目標です。一方、自学ノートは学習を管理するシステムで、主体的な学びとは相反します。生徒は、手取り足取り指導されることに慣れてしまうのが弱点だと思えます。更に、生徒のノートを見ていると、2ページを埋めることが目的となつているような場合もありました。また、成績上位層の生徒には、難問は時間が掛かる割にスペースが埋まらないからと、難問を敬遠する様子さえ見られていたのです

そうした状況を改善しようと13年度に始めたのが、「ヒトベンノート」の**提出免除制度**だ。これは、2・3年生を対象とし、「定期考査・実力テストの各学年の上位10人」、あるいは「5教科総合で400点以上の3年生」

が、次回のテストまでノートの提出を免除されるという制度だ。更に、中・下位層の生徒の学習意欲を高めるために、14年度前期の期末考査から、「前回テストより総合で50点以上アップした生徒」もノートの提出を免除したところ、5人の生徒が条件を達成したという。

自ら難問に挑戦する生徒、 免除されても提出し続ける生徒

提出免除制度によって、生徒の学習行動に変化は見られたのか。実施後、提出免除者に対して実施したアンケートによると、提出免除制度に「賛成」の生徒は、2年生では13人中7人、3年生では21人中14人だった。

2年生では賛否が半々だが、自由回答を見るとその理由が分かる。「『ヒトベンノート』がないと、つい自分に甘えてしまい、勉強をしなくなる」「ノートを出した方が気持ち引き締まる」など、ノート提出が自主学習の励みになっていく様子がうかがえる。そうした意識は学習行動にも表れている。免除後に「家庭学習時間が増えた」という2年生はゼロ(「同じ」が6人)で、「学習内容が変化した」という生徒も3人に過ぎない。藤本校長は、「学習意欲の部分で、まだ教員に支えてもらっているということが見て取れます。その甘えをなくさなければなりません」と厳しい。事実、先生からのコメントが欲しくて、免除に

学びの質を高める家庭学習指導

☒ 「ヒトペンノート」提出免除者のアンケート結果

Q.「ヒトペンノート」提出免除になって、あなたの家庭学習の内容はどのように変わりましたか？（3年生）

- ◎ 応用問題の勉強が増えた。やらされている感じが少なくなった。
- ◎ ノートをきれいに書く必要がなくなったので、考えることに集中できるようになった。
- ◎ 苦手なところにたくさんの時間を掛けることが出来るので、集中できたし、勉強時間も増えた。
- ◎ 要点のまとめ→基礎問題→発展問題の順番で勉強することが増えた。

- ▲ 勉強する内容が薄くなった。
- ▲ 量が少なくなった。やらなくてもいいという考えに負けそうな時がある。

* 同校の資料を基に編集部で作成

なっても提出し続ける生徒がいるという。

一方、受験を控えた3年生は、もう少し主体的だ。「学習時間が増えた」生徒は5人（同じ）は13人、「学習内容が変わった」生徒は14人に上った（☒）。提出免除制度に「賛成」と答えた3年生の男子は、「難しい問題に時間を掛けて取り組んでも、2ページが埋まるとは限りません。難問を解いた後に、ノートを埋めるために漢字の書き取りをすることもありました」と語る。難問にじっくり取り組みたい生徒にとって、2ページという制約は学習意欲の妨げになっていたのである。

「漢字や単語など基礎事項の反復学習は、部活動に例えると、試合もせずに基礎練習ばかり繰り返しているようなものです。本校の生徒は応用問題を解いた経験が少ないため、

少しひねりのある問題を出されると太刀打ちできないことが往々にしてあります。難しい問題にチャレンジして経験値を高め、主体的に伸びていく生徒をより多く育てることが、提出免除制度の最大のねらいなのです」（藤本校長）

● 成果と課題

キャリア教育を充実させ意識面からも学習意欲を高める

同校ではキャリア教育を通して学びの大切さを学ばせ、意識面からも学習意欲の向上を図っている。県内有数の進学校である秋田県立秋田高校の校長を招き、「品性の陶冶」の大切さを語ってもらったのはその一つだ。

また、3年生の夏休みに行っていた「**志望校面談**」を1年前倒しとし、13年度から2年生の夏休みに行っている。この面談で、生徒は志望校を宣言し、それを受けた学年部は生徒一人ひとりの成績と志望校のすり合わせを行い、合格可能性を検討する。志望に対して学力がまだ十分でない生徒もいるが、第1志望を諦めさせることなく、目標達成に向けて何をすべきかアドバイスを。逆に、合格圏の生徒には更に上を目指すよう発破をかける。「早めに志望校を宣言させれば、それだけ早く受験が現実味を帯びてきます。単なるあこがれではなく、現実の目標を持たせることで学びへの意欲を高めたいと思います」と

藤本校長はねらいを語る。

「ヒトペンノート」やキャリア教育の見直しによって、学習習慣の確立、学力向上を図りつつある協和中学校。元々、県平均に並ぶ学力のある学校だったが、13年度の秋田県の学力調査では県平均を超えた。しかし、藤本校長は「改革はまだ途上」と気を引き締める。「目標は、『ヒトペンノート』の提出をなくして、自分で勉強する生徒を育てることです。その意味で、まだまだ成果は実感できません。中・下位層の生徒に対しても引き続き、きめ細かい指導を継続して、学力の底上げを図っていく必要があります。現在の方法でよいのかを先生方と検討しながら、主体的な学びと学力向上の両方を実現する道を探っていきたいと考えています」（藤本校長）



藤本校長が考える 学校マネジメント

毎年4月に経営方針を示しますが、その後は出来るだけ「何も足さない、何も引かない」を心掛けています。校長のぶれない一貫した姿勢が、先生方の安心感と確かな実践につながります。また、先生方から出てくるアイデアを重視して実践に取り入れています。思い付いたことは躊躇せず、「まずはやってみよう」と前向きに取り組み、その後で効果を確認する。トップダウンからボトムアップの体質に変えることでミドルリーダーが育ち、先生の居場所づくりにもなると考えています。

下校前15分間の「長善タイム」で授業と家庭学習の連動を強化

新潟県 燕市立小池中学校

小池中学校では毎日、授業終了後の15分間を使い、生徒全員でその日の授業の振り返りと、家庭学習の計画を立てる「長善タイム」を行っている。取り組みを始めて6年、家庭学習の定着に課題があった生徒たちは、どのように変わったのだろうか。

「長善タイム」の概要

1日の授業を振り返り 家庭学習の計画を立てる

燕市立小池中学校では、6時限目が終わると、生徒の声で教室がにわかに活気付く。友だちと談笑しながら、その日の授業で使った教科書やノート、ワークを全て机の上にならずたかく積み上げていく（写真）。そして、5分後にチャイムが鳴ると、教員が指示をしながら、話をびたりとやめ、机に向かい教科書などをめくりながらノートに書き始める。

これは、毎日15分間行う「長善タイム」(図

1)だ。生徒が1日の授業を振り返り、分かったこと、分からなかったことを整理し、帰宅後、いつ、何を学習するのかを決めて、教科・内容・教材・時間をノートに書き込む。1年生では計画を立てるのに10分間程掛かる生徒もいるが、2・3年生の大半は5分間程で計画を終え、残りを計画に沿った自習に充てる。家庭学習の内容は、「授業内容を振り返りノートにまとめる」「漢字や英単語の反復練習」など、自分の課題に応じて自由に決める。理解できていなかった箇所は、その日に授業を行った全学級を巡回する教科担当に質問できる。「皆で計画を立てると気持ちが悪くなる

くし、家に帰ってからスムーズに勉強に取り掛かれます」と生徒は言う。15分間が過ぎたらそのまま学活を行い、落ち着いた雰囲気です。掃除の時間を昼休みとし、1日の最後に静の時間を設けることで、学校生活に動と静のメリハリが生まれるのも「長善タイム」の良さだと、研究主任の君正人先生は話す。「長善タイム」は、1日の最初に行う朝読書と共に、学校が最も静かになる時間です。最初と最後にそうした時間があることにより、学校全体の落ち着きや生活リズムを生み出していると感じます」

School Data

◎1947（昭和22）年に開校。「考える力」「伝え合う力」「つながる力」を育み、「豊かな心と活力をもって生きる生徒」の育成を目指す。2009年から「長善タイム」を教育課程に位置付け、家庭学習習慣と基礎学力の定着を図る。



校長◎小野塚正史先生

生徒数◎247人 学級数◎9学級（うち特別支援学級1）

所在地◎〒959-1265 新潟県燕市道金 1095-1

TEL◎0256-64-2033

URL◎<http://www.tsubame-city.ed.jp/koike-j/>

公開研究会◎未定

学びの質を高める**家庭学習指導**



写真 「長善タイム」の様子。家庭学習の計画は「18:10～18:30 社会 ノート復習」というように、具体的に立て、自主学习ノートに書き込む

◎「長善タイム」の工夫① 学校で学習内容を覚えておけば 帰宅後、スムーズに学習に入れる

「長善タイム」は、自学への意識を高め、授業と家庭学習のサイクルの定着を目的として、2009年に始めた。「長善」の名は、幕末から明治にかけて、この地で多くの人材を輩出した私塾「長善館」にちなんだ。進取の精神を抱いて越後から雄飛した先達の志を、生徒に受け継いでほしいという思いが込められている。

家庭学習習慣の定着は、同校の長年の課題だった。同校が08年度に行った生徒の意識調査では、生徒の35%に毎日家で学習をする習慣がなかった。そこで、家庭学習の進め方を

指導し、自主学习ノートを始めたところ、09年度には16%まで減らせた。ところが、10年度の調査では「計画を立てていない」生徒が7%もいることが明らかになった。進路指導主事の田中広明先生は次のように語る。

「本校の生徒は、生活態度は落ち着いている半面、のんびりした性格で、互いに刺激し合いながら切磋琢磨する意識が希薄です。学力的には良いものを持っていても、自分で計画を立てて実行するのが苦手で、家庭学習は目標の2時間に届かない状況でした」

当時の教頭と研究主任は、家庭学習の習慣が定着しないのは、学校の授業と家庭学習をつなぐ仕組みがないことに原因があると考えた。そして、先進校の視察を重ね、生徒を家庭学習へ導く方法として考案したのが「長善タイム」だ。導入前年に赴任した学習指導主任の田邊澄子先生は、

当時をこう振り返る。

「家庭学習が定着しない要因には、部活動による疲れ以上に、何をすればよいのか、思い付かないということが大きくありました。そこで、計画を立て、自学に取り掛かるところまでを学校で行うことで、家庭

図1 「長善タイム」の進め方

長善タイムの進め方

1日の授業を振り返り、家庭学習の計画を立てましょう

- 1 教科書、ノート、学習プリント等を机に出します。
- 2 今日の授業を振り返ります。
 - ① 今日の授業で何を学習したのかを確認します。
 - ② 分かったこと・よく分からなかったことを整理します。
 - ③ できたこと・よくできなかったことを整理します。
 - ④ 家庭で学習することを考えます。
復習、予習、ドリル学習(漢字・計算・英単語など)
- 3 家庭学習の計画を立て、自主学习ノートに予定を書きます。
 - ① 家庭学習の予定時間(開始・終了予定時刻)
 - ② 家庭学習の計画
 - 宿題
 - 自主学习
 ★ 何をやるか、どこをやるかを具体的に書きます。
- 4 分からないことや疑問に思ったことなどを、手を挙げて、積極的に先生に質問します。
- 5 自主学习を開始します。
※ 家庭でその続きをやりましょう。

「長善タイム」の進め方を示したプリント。各教室にも模造紙サイズで掲示してある *同校の資料をそのまま掲載



田邊澄子 たなべ・すみこ
燕市立小池中学校 学習指導主任。国語科担当。「生徒にとって、これからの人生の教養になるような授業をしていく」



田中広明 たなか・ひろあき
燕市立小池中学校 進路指導主事。3学年主任。数学科担当。「『数楽』で柔軟な発想を、『共感』で心の耕しを」



君正人 きみ・まさと
燕市立小池中学校 研究主任。社会科担当。「生徒が生きていくためのヒントになるような授業を心掛けている」



小野塚正史 おのつか・まさし
燕市立小池中学校 校長
「将来の自己実現に向けた学力が身に付く『充実した学びの場』がある学校を目指す」

でもスムーズに学習に入れるのではないか、という研究主任の提案を受けて始めました」

「長善タイム」は全校体制で指導に当たる。5教科の教員は、その日に授業を行った全ての学級を回り、生徒の個別質問に答える。当初は学級担任だけが指導していたが、「疑問点は持ち帰るのではなく、その日のうちに解決すべきだ」という意見が出て、教員全員で校内を巡回する方法となった。その際、音楽や保健体育などの実技教科の担当教員は、各学級の様子を見ながら廊下を巡回する。

「質問がある生徒は黙って挙手をして待つのがルールなので、発言が苦手な生徒にとっても質問しやすいようです。教室に行った時にたくさん手が挙がるとうれしくなりますが、質問が多い箇所は自分の授業が分かりにくかったことの表れでもあるので、指導改善に生かすようにしています」（田邊先生）

●「長善タイム」の工夫②

毎回、授業の最後に振り返りをし 授業の理解度を把握させる

「長善タイム」の短時間で、授業の振り返りがしっかり出来るように、授業も工夫している。どの教科でも、毎時間、授業の冒頭で本時の「めあて」を明確にし、最後の5分間で「振り返り」をする。

振り返りの方法は教員によって異なる。例えば、2年生の数学では、A4判の「振り返り

図2 数学の「振り返りカード」

数学自己評価カード		2年 組 番		名前	
単元名	図形の性質の調べ方	一言感想	挙手・板書	宿題・忘れ物	
学習月日	今日の学習のめあて	授業の集中度 めあての理解度	一言感想 ・何がわかって、何がわからなかったか ・先生への要望 ・全体の感想 など		
1	11/6	(O) (O)	何がわかって、何がわからなかったか 先生への要望 全体の感想 など		
2	11/7	(O) (O)	何がわかって、何がわからなかったか 先生への要望 全体の感想 など		
3	11/8	(O) (O)	何がわかって、何がわからなかったか 先生への要望 全体の感想 など		
4	11/9	(O) (O)	何がわかって、何がわからなかったか 先生への要望 全体の感想 など		

数学の「振り返りカード」は、授業の理解度や集中度の他、挙手・板書は出来たかなどを記入させる
*同校の資料をそのまま掲載

りカード」に、授業の理解度、集中度をそれぞれ4段階で自己評価し、更に出来たこと、出来なかったことを「一言感想」として短く記入させる(図2)。「図形の性質の調べ方」の単元では、「図形は得意なので今のところは分かる。今後が楽しみ」「図形はいろいろなつながりがあるが深いことが分かった」などのコメントがあり、生徒が意欲的に取り組んでいる様子が見え始める。用紙の裏には、生徒が見通しを持って学習できるように、単元ごとの「学習のめあて」が一覧表になっている。「カードを見ると、数学が得意な生徒でも

理解できていない場合が分かります。気になる生徒がいれば『長善タイム』で巡回する際に声を掛け、どこでつまづいているのかを確認するよう心掛けています」（田中先生）

「長善タイム」は、生徒が授業内容の不明点をなくし、家庭学習の計画を立てるだけではなく、今日の授業は生徒にとって分かりやすかったのか、教員が自身の授業方法や教える方を振り返る時間でもある。

●「長善タイム」の工夫③

教員が「一枚岩」になって 15分間を捻出

この「長善タイム」は、小池中学校発の取り組みとして、今では燕市内の多くの小・中学校が行っている。方法は各校の実態に応じて変えていて、時間も5分間、10分間とさまざまだが、市内の学校が全体で学習習慣の定着と質の向上に力を入れるようになったのは、大きな成果といえる。

市の教育行政に影響を与えるまでになった「長善タイム」だが、軌道に乗るまでは課題もあった。最初のハードルは「15分間という時間をどのように捻出するか」だった。朝の登校時間を5分早め、給食の時間を5分削り、部活動を5分遅らせて時間を確保した。登校や給食の時間を変えることに対しては異論もあったが、「教員が一枚岩にならないければ学校は変わらない」という当時の教頭や

学びの質を高める**家庭学習指導**

研究主任の呼び掛けで導入が決まった。当初は消極的だった教員も、取り組みが進むに連れ、生徒が家庭学習をしつかりしていく様子を見て、「長善タイム」はなくてはならないものだと感じ始めたという。

生徒も、最初の頃こそ「長善タイム」で何をすればよいのか分からず、落ち着かない雰囲気もあったが、1、2年の間に静かに取り組める環境が出来上がっていった。

「6時限目終了後の15分間と、時間を固定したのが良かったと思います。授業が終わったら必ず『長善タイム』があると分かっている、生徒は自然と静かな雰囲気になれるので、生徒は自然と静かな雰囲気に溶け込めるのだと思います。今では6時限目が終わったなら、チャイムを待たずに計画を立て始める生徒も少なくありません」(田邊先生)

また、同校では毎学期に相談週間を設け、1人10〜30分間、どのような相談でも受けている。そのように、教員が生徒をしつかり見ていることが、生徒に安心感、教員への信頼感を生み、校内の落ち着いた雰囲気につながっている。

● 成果と課題

課題は上位層の引き上げと 将来を見据えた学ぶ意欲の喚起

「長善タイム」を始めて6年経ち、取り組みの成果はデータにも表れている。校内アンケートによると、「家庭学習に継続して

取り組んでいる生徒」は、08年の65%から14年には90%まで上昇。また、14年度の文部科学省「全国学力・学習状況調査」の「復習をしているか」の項目は、全国平均50・4%に対して同校は72・4%、「平日の家庭学習時間が1時間以上の生徒」の割合は、全国平均67・9%に対して同校は72・3%だった。学方面でも、A問題・B問題共に全国平均を上回り、特に数学Aは8・5ポイント、数学Bは7・0ポイントも全国平均正答率を上回った。

一方、課題もある。その1つは土日の家庭学習だ。「長善タイム」は、その日の授業の振り返りを基に学習計画を立てるため、週末の家庭学習がどうしても手薄になる。定期考査前以外の週末にも学習を継続させる仕組みが必要だという。もう1つは成績上位層への対応だと、小野塚正史校長は語る。

「1・2年生は意欲的に取り組んでいます。3年生になると形骸化して、特に上位層は落ち着いた雰囲気に安穩としてしまう生徒が目立ちます。家庭学習習慣の定着が出来たら、上位層を伸ばすための方策をどうするかという視点が、『長善タイム』にも必要だと考えています」

これらの課題は、「研究推進委員会」が中心となって、教職員全員で14年度内に具体案を見いだす方針だ。

また、生徒の学習意欲を高めるために、今後はキャリア教育も充実させていくという。

「本校の生徒は、学習習慣は身に付いていますが、学習意欲にはまだ課題があります。内発的な意欲を高めるためにはキャリア教育が切り札になると考えています。高校卒業後、今や7〜8割の生徒が大学や専門学校に進学していますが、中学校のキャリア教育では高校調べや訪問、職場体験学習を実施するものの、その連続性に課題があり、4、5年後の自分を思い描く機会がありません。本校の生徒は「長善タイム」によってスキルステップで先を見通して行動する力を培ってきました。今後は、高校の先にある大学や専門学校の連携を密にすることにより、自分の将来に見通しを持つ生徒が増えていくと共に、成績上位層を中心に自ら学ぶ意欲を喚起できるものと期待しています」(小野塚校長)



小野塚校長が考える 学校マネジメント

本校には経験豊富なベテラン教員が多く、生徒のために何が必要かを常に考え、部活動も一緒に汗を流すばかりです。生徒も素直に頑張るので、それに触発され、教員ももっと頑張ろうという意識を持るところが本校の強みです。ただ、経験豊富が故に、取り組みを大幅に変えたり、取り組みそのものをやめたりすることに抵抗感が強いのも事実です。時には大胆な改革も必要であることを理解してもらい、スクラップ&ビルドを進めていくことが、今後の私の役割だと考えています。

予習を前提とした「反転授業」で 授業理解度と教員の授業力が向上

兵庫県 篠山市立篠山東中学校

2014年度、篠山東中学校は全校で「反転授業」を始めた。動画による予習（インプット）を前提とした反転授業を取り入れたことで、授業時間内の応用課題やディスカッションなどの知識を活用する時間（アウトプット）が増え、生徒の授業理解度と学習意欲、並びに教員の授業力が高まっている。

●反転授業を始めた背景

予習前提の活用型授業で 知識の理解・定着を高める

篠山市立篠山東中学校の「反転授業」は、授業での課題解決に必要な知識の説明をまとめた予習動画をDVDで配布し、生徒が事前に視聴した上で授業に臨むというスタイルを取っている。生徒が学習内容を予習しているため、授業では説明を短縮でき、知識の定着を促す演習や発展的な課題に時間を掛けられる。従来の授業と家庭学習を反転させた形態をいち早く取り入れた背景について、赤井敏

博校長はこう説明する。

「講義中心の授業では、生徒は受け身になりがちで、学習内容の定着は十分ではありませんでした。そこで着目したのが反転授業です。予習による知識のインプットで課題意識を持つていけば、生徒は授業に主体的に臨めます。更に、学習内容を活用したアウトプットの時間を従来の授業よりも多く確保できるので、知識の理解の深まりと定着がより期待できます。授業の形態を変え、質を高めて、生徒の学力向上を図りたいと考えました」

13年度は数学・英語で試験的に始め、14年4月から数学と英語は全学年で実施。2学期

School Data

◎1998（平成10）年に篠山町立城東中学校と篠山町立多紀中学校を統合し開校。「四つ葉のクローバープロジェクト」を推進。チャレンジ、サポート、ボランティア、フロンティアの各スピリットの育成・実践を目指している。



校長◎赤井敏博先生

生徒数◎125人 学級数◎6学級（うち特別支援学級1）

所在地◎〒669-2406 兵庫県篠山市泉若林1-1

TEL◎079-556-3781

URL◎<http://higashi-jh.sasayama.jp/>

公開研究会◎未定

からは体育・音楽以外の全教科に広げた。

●予習動画のポイント

授業への関心や理解度が 高まるように工夫

反転授業では、生徒は教員自作の予習動画を授業前に自宅でDVDやインターネットで見て、分かったこと・分からなかったことを確認しておく。動画の長さは5〜10分。授業と同様に板書をしながら説明するもの、プレゼンテーションソフトや手元の拡大撮影で解説するものなど、教員個々に工夫を凝らす。

例えば、**1年生の英語**の予習動画では、単

学びの質を高める家庭学習指導

元の学習事項である「Where？」を用いたスキットを教員2人がコント仕立てで行う。マジシャン役の教員が帽子や腕時計を次々と消していくと、相手が驚いて「Oh my god! Where is my watch?」と尋ねる。すると、帽子や腕時計をテレビの上や机の下に現して、「on」や「under」という前置詞の使い分けも理解させる。生徒が会話に集中できるよう、まず会話だけのスキットとし、次に同じスキットに英文のテロップを入れる。マジシャン役を務めた英語科の木寅丈紀先生は次のように説明する。

「生徒に『何を話しているのだろう』と思わせる動画にすることを最も重視しています。英語が得意・不得意にかかわらず、どの生徒もスキットへの関心を高められるように工夫しています」

授業では、少しずつ違った部屋の絵が描かれたプリントを配り、次々と相手を替えながら、「Where is your book?」「My book is on the desk」などの会話を通して、部屋の同じ場所に同じ物があるペアを見つけさせるといふ活動を行った。予習の成果もあって、生徒たちはスムーズにペアを見つけ出せていた。

2年生の数学「多角形の内角の和」の単元の予習動画では、教員が教壇に立ち、黒板に三つ六角形や途中式のカードを貼りながら、なぜ $180 \times (n-2)$ の公式が導き出されるのかを説明した。黒板にチョークで書かず、

カードを使うのは、時間短縮のためだ。

数学科担当の末永康先生は、研究主任として反転授業の主幹も務めるが、以前は、数学では予習よりも復習の方が学習に効果的と考えていた。

「生徒が教科書などで予習をしてくると間違った理解をしてしまうことがあり、その誤解を修正するのに時間が掛かることがあります。でも、教員が作る動画であれば、教えた通りに生徒は予習してくるので、授業の講義と同じ効果が得られやすいと感じました」

他にも、理科ではガスパナーの使い方、技術ではノコギリの使い方のように、用具の使い方を説明する予習動画もある。用具の使用法は、授業で一斉に説明するだけでは理解させにくく、時間も掛かる。動画であれば、手元の細かい動きや小さな部品も拡大して見せられるため、格段に理解を図りやすい。「分からなければ、2度、3度と繰り返し見て、理解を深めて来てくれる生徒もいます」(末永先生)

●予習動画による授業の変化

予習した知識を基に 演習や活動を積み重ね、定着を図る

このように、授業内容を予習し、課題意識を持って授業に臨むと、授業にはどのような利点があるのか。2年生の数学「多角形の内角の和」の授業では、最初の5分間で動画の



篠山市立篠山東中学校 校長
赤井敏博 あかい・としひろ
「フロンティア・スピリットを持って教育改革を進めていきたい」



篠山市立篠山東中学校
末永康 すえなが・やすのり
研究主任。数学科担当。「生徒が『分かる！ 出来た！』と感じられる授業を心掛けています」



篠山市立篠山東中学校
木寅丈紀 きつら・たけのり
英語科担当。「生徒のうなずきが多く見られるような授業を心掛けたい」



篠山市立篠山東中学校
山内大輔 やまうち・だいすけ
英語科担当。「明るく、楽しいを motto に、いつも心に余裕を持って生徒と向き合いたい」



篠山市立篠山東中学校
Amy Grassow
エイミー・グラッソウ
A.L.T.南アフリカ共和国出身。「生徒の熱意を生み出す、熱心な教員でありたい」

振り返りを行い、残りの大半を問題演習に充てた。

「予習動画と同じ内容を授業で説明しよう」とすると、理解できていない生徒に合わせて、丁寧に解説しなければなりません。以前は、説明だけで30分間は掛かり、残りの20分間で演習を行っていました。反転授業では、数学が不得意な生徒でも予習動画を繰り返し見て

公式を理解しているので、説明は短くて済み、演習に時間を割いて理解を深めることに重点を置けます」(末永先生)

英語では、文法の説明を動画で行うことになり、授業では活動の時間を多く取れるようになった。特に、同校では基本的にオールイングリッシュで授業を進めているため、動画で基本事項を理解しておく、生徒はスムーズに授業に入りやすい。

3年生の英語では、予習動画に基づいた課題を出し、授業では生徒各自が行ってきた課題に基づいてグループ活動を行った。

課題は、予習動画で5人の偉人の紹介(AIによるナレーションとテロップ)を見て、事前に割り当てられた1人について、人物像や業績を英文でまとめるという内容だ(図)。授業では、同じ偉人について書いてきた生徒4、5人が1組となり、自分が調べて書いた英文をグループ内で共有。そして、グループとして1つの紹介文にまとめていく。「He is an animator and……」「Cede the seat……」という意味?」など、分からないところはグループで話し合い、意見を出し合いながら英文を完成させる(写真1)。

課題の完成度は、生徒の英語力によってさまざま。予習動画で流れた英文を聞き取って書いてだけの生徒もいれば、インターネットで調べて情報を加えた生徒もいる。授業を担当した山内大輔先生は、「授業の目的は、

ヒアリング、スピー

キング、ライティン

グの3技能を使って

アウトプットしながら

、学び合いをする

ことにあります。で

すから、ナレーショ

ンをそのまま書いて

きてもよいのです。

動画をしっかりと見て

何かを書いてくれば、

事前に知識を持って

授業に臨めます。そ

う考えて、予習動画

と課題を設定しました」と語る。

次に、別グループの生徒とペアを組み、互いに調べてきた人物について英語で紹介し、聞き手はワークシートに英文で書き取るという活動を行った(写真2)。このように相手を替えてペアワークを行い、調べてきた人物以外の4人について英文で書き取る。

「この授業形態は生徒にとって新鮮で、意欲的に取り組んでいました。ただ、全ての単元が、反転授業に適しているわけではありません。会話文のあるユニットなど、活動を取り入れやすいところは反転授業で、新出の難しい文法事項は通常の講義形式の授業でというように使い分けています」(山内先生)

授業を受けた生徒からは、「事前に準備で

3年生の英語の予習プリント

Let's Write About Famous Person in the world
 ~有名人名についてレポートを書こう~
 You must watch the DVD and study about people who are famous in the world.
 Write a report about one person.

Step 1 The person you must write about is :
 あなたがレポートを書く人物は? → Rachel Carson

Step 2 Write about this person (Write down some information)
 その人はどんな人物ですか。その人についての英文を書いてみよう!

She was born on May 27, 1907 in America.
 She was a marine biologist.
 She wrote a famous book about protecting the environment. The book was called Silent Spring.
 She got the Presidential Medal of Freedom.

Step 3 Why is this person famous?
 なぜその人物は有名なのですか。あなたの考えを書いてみよう

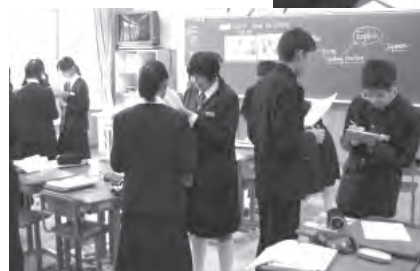
自然環境の保護について書いた『沈黙の春』という有名な本を書いて大統領賞も受賞したから。
 海洋生物学者で功績を残したから。

課題として出された、偉人について調べて英文で書く予習のプリント。*同校の資料をそのまま掲載



写真2 3年生の英語の授業でのペアワークの様子。一方がグループでまとめた偉人の紹介文を英語で話し、もう一方はそれを書き取る。ペアワークでは日本語が一切禁止のため、身振り手振りも交えながら、懸命に英語で伝えている

写真1 3年生の英語の授業でのグループ活動の様子。普段は習熟度で1クラスを2つに分けて授業を行っている。今回の反転授業では活動が中心となるため、クラスを分けず、1クラスに教科担当2人、ALT1人が付いて、個別指導を丁寧に行った



学びの質を高める**家庭学習指導**

きたので、普段よりたくさん英語を使えた」「次の授業で何をするのか分かるので、授業が楽しみになった」といった感想が聞かれた。動画による予習が、授業での活動を充実させるだけでなく、授業への期待感を高めている。

●予習動画を作る工夫

動画の撮影・編集には 長期休業中や普段の授業を活用

反転授業の導入には壁があった。1つは予習動画の準備だ。導入初年度は数学・英語のみだったため、教員自身が動画を全て撮影・編集した。14年度は、各教科で反転授業を行う単元を選び、夏季休業中、篠山市立図書館の視聴覚ライブラリーに所属する市民ボランティアに無償で支援してもらいながら撮影・編集を進めた。作成した動画はDVDに複写したり、学校のウェブサイトで視聴できるようにした。

効率良く、質の高い動画を作るため、教員間で協力し合った。英語科では、ALTのエイミー・グラッソン先生がパソコン操作に長けていたため、動画の編集も担当した。

「母国でもICTを使った授業が普及しつつあります。動画作成は自分の趣味でもあるので、スキルを生かして、教材づくりが出来る楽しかったです」

現在は、普段の授業の撮影を徐々に進めて

いる。その映像を10分程度に編集し、次年度の反転授業の教材にするのが目的だ。

「動画撮影では、セリフを間違えればやり直しですし、編集などに時間も手間も掛かります。ただ、一度作れば、以降は同じ動画を活用できます。最初は大変ですが、授業をうまく利用するなどして、アーカイブ（保存資料）を少しずつそろえています」（末永先生）

●成果と課題

予習→授業→復習のサイクルを 自律的に確立することが目標

生徒へのアンケート結果を見ると、反転授業に対する評価は高い。2年生数学の「多角形の内角の和」では、「授業の内容を理解することができましたか」に対して、「とても理解できた」は43%、「理解できた」は57%であり、「理解できなかった」と答えた生徒はゼロだった。技術科の「ノコギリの使い方」では、予習動画が「参考になった」は95.4%だった。自由記述では、「動画を止めたり戻したりできるので分かりやすい」「短かったので集中できた」「授業ですぐに質問できた」「映像や音声の方が理解しやすい」「演習の時間が多く取れてよかった」といった意見があった。

また、反転授業の授業づくりを通して、教員の授業改善、指導力向上も図られるという。「従来の講義中心の授業スタイルを見直し、

より定着を図ることが出来る授業スタイルへと転換させるきっかけになりました」（末永先生）

何よりの成果は、反転授業導入に踏み切ったことで、新たな授業形態に挑戦する可能性が広がったことだと、赤井校長は強調する。

「目標は、予習動画がなくても、生徒自身で『予習→授業→復習』というサイクルを回せるようになることです。それが出来れば、高校・大学に進学した後も、自ら学び続けるようになるでしょう。生徒の授業への意欲が高まれば、先生方も指導が楽しくなり、更に深いところまで教えようという気持ちになります。先生方の前向きな気持ちが生徒の意欲を更に引き出していく、そうした好循環が生まれることを期待しています」



赤井校長が考える 学校マネジメント

私も、教員時代は生徒の学習意欲を喚起し、レディネスを上げてから実際の授業に臨むことを心掛けてきました。先生方が、反転授業に対する私の情熱を酌み、多忙な業務の合間を縫って、教材作成に頑張る姿には頭が下がる思いです。私が校長を務められているのも、それほど長くはありません。これからは管理職のリーダーシップがなくても、先生方が主体的により良い教材づくり、授業づくりを模索していける環境を整えていきたいと考えています。

北海道札幌市立陵北中学校

札幌市立陵北中学校で保健体育科を受け持つ浅井雄輔先生は、いつもタブレットを手に体育館に向かう。模範演技を動画で見せたり、タイムシフト再生（撮影の数秒後に遅れて再生させる機能）を使ったりするからだ。例えば、マット運動で膝を曲げたり、腰を伸ばしたりするタイミングは、教員の実演だけでは生徒に伝わりにくい。そこで、模範演技の動画をタブレットに入れ

ておき、体育館にある50インチのテレビで見せ、ポイントとなる箇所映像を止めて説明を加える（写真1）。また、タブレットのカメラで生徒の運動の様子を撮影し、テレビにタイムシフト再生で映す。自分の動作をすぐ確認できるため、生徒が自ら改善点に気づき、生徒同士で教え合う場を生み出している。浅井先生は、タブレットを活用し始めて授業の構成が変わったと話す。

「教員の実演は途中で止められず、生徒は『すごい!』と言うだけで終わってしました。動画は、停止もスロー再生も手元の操作で自在に出来て、言葉では説明しにくいことも視覚的に伝えられるようになりました。また、運動が得意な生徒は、タイムシフト再生を見ながら自分で学習を進められるので、私はまだ出来ない生徒により丁寧な指導を行えるようになりました。得意な生徒も不得意な生徒も、共に理解度がより深まっていると感じます」

教材も、授業中の個別指導も充実

同校では2014年度、札幌市の「タブレット端末を活用したICT実証研究事業」の指定を受けたことをきっかけに教員のICT活用が進んでいる。全教員32人に対し1人1台のタブレットが配布され、更に、校内無線LANの設置、月2回のICT支援員訪問と、ICTを活用する環境が整備された。研究テーマは「よりわかりやすい授業づくりのための日常的なICT活用」だ。豊島義明校長は事業のねらいについて次のように話す。

電子黒板、大型テレビモニター、書画カメラなどをそろえ、ICTを活用した授業は、多くの学校で進められているが、一部のICTに長けた教員にとどめず、学校全体で進めていく必要性がよく課題に挙げられる。そうした中、今号では、ICTを日常的に活用できる環境を整備すると共に、教材研究や校務にも活用できるようにし、ICT活用を進めている学校を取り上げる。

広がる授業の工夫 教員1人1台のタブレットで

School Data



札幌市立陵北中学校

◎ 1961（昭和36）年開校。学校教育目標は「真を求めて 信に生き 未来創造に迫る。『学ぶ力』育成プログラム」を推進する。

校長 豊島義明先生 / 生徒数 612人 / 学級数 19学級（うち特別支援学級2） / 所在地 〒063-0802 北海道札幌市西区二十四軒2条3丁目1-23 / TEL 011-621-1225 URL <http://www.ryohoku-j.sapporo-c.ed.jp>

「札幌市は子どもの数が多く、生徒1人に1台のタブレットを配備するのは難しい状況です。ならば、教育活動をより充実させるために、限られたICTの設備を教員がどう活用できるのか、毎日の業務にどう



札幌市立陵北中学校 校長

豊島義明

とよしま・よしあき 「心のこもった本物の挨拶と笑顔があふれる学校を常に目指している」



札幌市立陵北中学校

原雄二郎

はら・ゆうじろう 技術・家庭科。「明日のために生徒と共に日々勉強する」



札幌市立陵北中学校

福井裕美

ふくい・ひろみ 情報担当。美術科。「机間指導を大切に、生徒の困りを一緒に考える」



札幌市立陵北中学校

浅井雄輔

あさい・ゆうすけ 情報担当。保健体育科。「生徒も教員も昨日の自分を越えられるように!!」

生かせるのかを日々研究しています」

同校には、各教室に50インチのテレビが設置されており、以前から書画カメラやノートパソコンを持ち込んで画像や動画の提示などは行ってきた。それにタブレットが加わったことで個別指導の幅が広がったと、美術科の福井裕美先生は話す。

「軽量のタブレットなら、持ちながら机間指導が出来ます。生徒に課題が見られたら、それに応じたモデルの作品をタブレットで見せられますし、他の生徒にも参考になると思う作品を見付けたら、タブレットで撮影してテレビに映し、すぐに生徒全員と共有できるようになりました」(写真2)



上/写真1 体育の授業では、タブレットに入れておいた模範演技の動画で説明することで、運動のポイントを的確に指導できる 右/写真2 タブレットに資料を保存できるため、机間指導中も、その生徒の課題に応じた資料をすぐに表示できるようになった



教員専用タブレットのため、閲覧制限がなく、校内で見られるサイトが増えた上、無線LANが整備されたことで、教材がより充実していると、技術・家庭科の原雄二郎先生は話す。

「確かに、インターネット活用にはリスクがありますが、ネット上には学びに役立つ動画もたくさんあります。教材になるものを手軽に探し、生徒に提示できるようにしたので、教材研究の幅が広がりました」ただ、ICTの活用には留意点もあると、福井先生は指摘する。

「動画はスムーズに流れるので、生徒がノートを取る時間を確保しながら進めることも重要だと感じています。また、美術ならではのことだと思いますが、色の豊かさや筆遣いの精巧さは、テレビ画面ではなかなか再現できません。実物を見せることも大切になっています」

授業に必要な機能が1台に詰まっている

タブレットの活用で、教員の業務の効率化が進んでいることも、授業に好影響を及ぼしている。例えば、生徒の作品を見せる時、これまではデジタルカメラで撮影し、カメラとパソコンをケーブルでつないで取り込み、更にパソコンとテレビをケーブルでつないで映し出すという作業が必要だった。それがタブレットなら、授業での活用

に必要な機能が全て収まっているため、撮影から生徒への提示まで1台で行える。

原先生は、教科書をスキャンした画像を、タブレットから無線LANでテレビに映し出す。生徒に注目させたい箇所も、タッチパネル式なのでスムーズに拡大して見せられる。

「以前はノートパソコンからテレビに映していましたが、マウスで拡大・縮小するのは加減が難しくてやめてしまいました。タブレットは操作性も良く、限られた授業時間を有効に使えます」(原先生)

浅井先生は、保健の授業で自作のプレゼンテーション教材を示しながら講義をしているが、タブレットならその修正が簡単に出来るため、授業改善に役立つと話す。

「生徒の反応で気になることがあれば、授業後すぐにデータを修正して、話す順番を変えたりしています。何を話したのがデータを見ればすぐに思い出せるので、授業改善も機動力よく行えます」

事業開始から半年。職員室でタブレットの活用について話す場面も増えた。ICT支援員のアドバイスもあり、パソコンにあまり詳しくない教員にもタブレットの活用が自然と広まっていると豊島校長は言う。「教員が日常的に使おうようになることが、指導の工夫につながると捉え、試行錯誤を恐れず研究を進めていきたいと思えます」



ミドルリーダーの挑戦
—前へ! 前へ!!

現状に満足することなく、常に向上心を持ち、周囲から学び続ける

長崎県 長崎市立西泊中学校 角家理恵子 41歳



Middle Leader

かどや・りえこ◎教職歴18年。長崎市、吉岐市の中学校に4年間ずつ勤務した後、長崎大学教育学部附属中学校で8年間教壇に立つ。その後、長崎市立西泊中学校に赴任して3年目。担当教科は英語。教務主任。

これまで私が歩いてきた道のり

他者から学ぼうとする心と
思いを受け止める大切さを
学んだ

教職9年目に赴任した長崎大学教育学部附属中学校では、さまざまな教科の研究授業に参加し、生徒に考えさせるための発問や板書の仕方など、いろいろな先生の実践から自分の授業を更に改善するための視点を得ることが出来ました。大きな気づきだったのは、他教科であっても、意見を率直に述べるのが、授業を見せてもらったことへの感謝の意につながるという考えです。同時に、改善に結びつく建設的な発言をする

ためには、「何を目指して、どのような状況の生徒に向けて行われているのか」をしっかりと確認した上で、研究授業に参加しなければならぬということも理解しました。

附属中学校では、教育実習生を指導する場面が多く、当時、各教科で4〜5人、さらに担任する学級で7〜8人が配当され、実習期間中は教科指導や学級経営を常に公開します。そうした中で、自分を良く見せようとする必要はなく、だめな部分を見せることも実習生にとっては学びになると気付きました。未熟さはあるけれども、挑戦しよう、工夫しようという実習生の熱意は、私にとって

も刺激となりました。

現状に甘んじなければ
授業改善には
終わりが無い

授業や学級経営以外でも、気付きはたくさんありました。例えば、以前の私には、校務を行う際に効率性を重視する傾向がありました。「こうすれば、もっと円滑に進められるのに」と思いを口にした私に、ある先輩が「それは正しいと思う。でも、遠回りをして違う景色を楽しむ余裕があれば、もっと成長できると思う」とおっしゃったのです。その言葉には大変意味深いものがあり、自分の未熟さに気付かされました。それ以来、その言葉は心の中にずっと残り、今でも折に触れ、立ち止まって考える指針の一つとなっています。

附属中学校には8年間勤務しましたが、いちばんの学びは、「目の前の生徒を見極めた上で、何をどう働き掛けるかを十分に考える」ということです。経験を重ねると、そうした見極めが曖昧なままでも授業が成立するようになります。しかし、生徒をしっかりと見て、どのような力身に付けさせたいかを突き詰めるこ

とで、授業で使う資料一つをとって
も、数ではなく質が大切なのだとか
り、精選する方針が明確に見えて

今、私が踏み出そうとしている新たな一歩

周囲の気持ちを高め、 力を引き出す存在に なりたいたい

公立中学校に戻った今、これまで
以上に向上心を持って、生徒と向き
合っていきたいと考えています。教
科指導では、英語を伝える有益性や
楽しさを伝えるように心掛けていま
す。多くの中学生にとって、実生活
で英語を使う機会は多いとは言え
ず、入試のために英語を学ぶのだと
考えている生徒も少なくないでしょ
う。しかし、中学時代に英語に親し
み、英語を「使える」「使おうとする」
素地を培えば、社会人になって英
語を習得する必要性に迫られた時で
も、新たな視点で学習を始めること
が出来ます。そうした思いで、授業
の冒頭に生徒が選んだ英語の歌を歌
うなど、英語が苦手な生徒も英語を
楽しめるよう工夫を続けています。

きます。現状に甘んじなければ、授
業や学級経営の改善には終わりがな
いのだと気付きました。

現任校では、教務主任をさせてい
ただいています。卒業式や入学式の
司会進行では、生徒の人生の節目と
なる厳粛なセレモニーとなるため失
敗が許されないという緊張感があり

ますが、生徒が気持ちを高められる
ように当日まで準備をして臨み、生
徒の晴れやかな笑顔を見ることは教
師冥利に尽きます。また、教育課程
の推進については、多忙な先生方が
じっくりと教育計画を作成できるよ
う、時間的な余裕を持って声をかけ
るなどの配慮を心掛けています。

私は良き先輩に恵まれてきたと強
く感じます。例えば、現任校の校長
の長谷川良子先生は、生徒たちの活
動の成果物や、学校のウェブサイトを
印刷したもの、「学校だより」など
を生徒の目に触れるところに掲示
して心の教育を行うなど、アイデア
と実践力が豊富です。しかも、私た
ち職員の熱意を引き出すような声掛

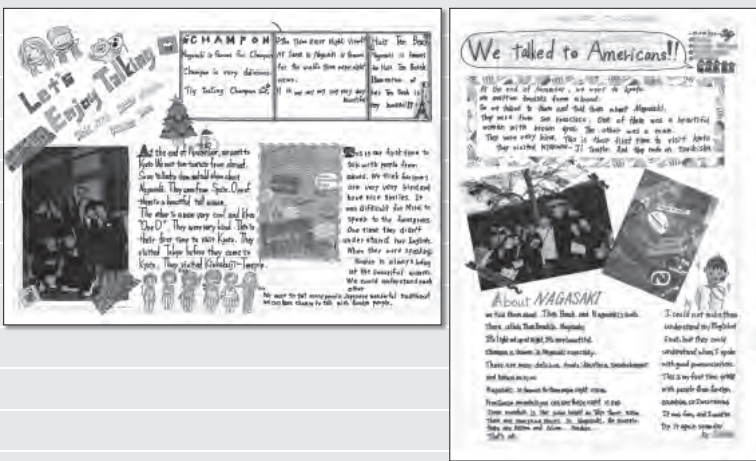
けをされます。私も、長谷川先生の
ように、一緒に働いている人のやる
気を引き出せるような存在になりた
いと思います。「生徒のためにこれ
をやってみよう！」と先生たちが思
いを語り合える職場にすることで、
生徒たちが生き生きと活動する学校
を創造する一助となるよう、さまざ
まな提案をしていき、教務主任の仕
事を楽しみたいと思っています。

中学校教師が生徒に関わることが
できるのは、わずか3年間です。し
かし、生徒の人生は卒業後も続きま
す。3年間だけを見るのではなく、
その後を意識して指導することが重
要だと、社会人になった教え子と再
会するたびに強く感じます。
生徒の「これから」を見据えて、「生
きる力」を育む教師であるよう、私
も学び続けたいと思っています。

長崎の魅力をアピール

角家先生の取り組み

◎長崎県は、発信力の育成を大切にした教育を展開しています。本校でも、
ふるさとの良さを知り、魅力を英語でアピールする活動を英語の授業に3年
計画で設定しました。1年生では長崎や自分の町の魅力を日本語で作文にま
とめ、2年生となった今年度は、長崎の魅力を紹介するコラージュ作品を見
せながら、修学旅行先の京都で外国人観光客を相手にPR活動を行いました。



修学旅行先の京都で、英語で長崎の魅力を外国人に説明した体験を写真や英文でまとめた。
3年生では、英語での作文とスピーチを計画している。

2014 Vol.2 特集「広がる学力格差への多様な取り組み」へのご意見

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』中学版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト(<http://berd.benesse.jp/>)でご覧いただけます。

◎学力格差は本校でも大きな課題であり、今回の特集は大変参考になりました。昨年度から学習支援ボランティア(保護者及び地域住民)を活用し、放課後学習会を週2回実施しています。教員はもとより、学習支援ボランティアにも特集の情報を提供し、学力向上に向けた取り組みの一助としたいと考えています。[北海道/R中学校]

◎低学力層の底上げは、学校の努力が必要ですが、小学校時代に学習習慣を身に付けておくことと、家庭に学習する環境と時間がしっかり確保されていることが、学力向上に不可欠だと考えます。「土台なくして家建たず」です。その意味で、青森市立沖館中学校の実践はとても参考になりました。校長のリーダーシップと教員のチームワークが、学力向上への学校の一体感を生み、生徒への好影響につながったのだと思います。[東京都/K中学校]

◎現任校が抱える課題に、立川市立立川第一中学校の補習の取り組みが参考になりました。試験に特化した学習会や補習は、取り組みの成果が目に見えやすいので、成績下位層も意欲が高まると考えます。ただ、試験前には会議が多いため、校務のスリム化などの方策も、同時に必要だと感じました。[宮城県/D中学校]

◎朝倉市立十文字中学校の取り組みが参考になりました。「上位層がけん引する学校づくりで、全体を底上げ」という視点は、本校でも取り組みたいと思っていたからです。特に、難関大キャンパス訪問は、私にはない発想で、非常に参考になりました。[埼玉県/K中学校]

◎特集の対談で、奈須正裕教授の「学習が苦手な生徒は、必ずしも学習をしていないのではなく、学習の方略に課題がある」という指摘に、意欲はあるけれども成績が伸びない生徒と、意欲そのものがない生徒に対するアプローチを分けて考える重要性を実感しました。[東京都/O中学校]

◎「私を育てたあの時代、あの出会い」で、人を育てる大切さに共感しました。また、育ててもらったことに感謝できる人が、人を育てられるのだと思います。「お陰様で」という言葉を忘れず、日々、頑張っていきたいと思っています。[福島県/K中学校]

◎これからは「公立だから」「私立だから」とは言っていない時代になると思います。その意味で、「Benesse 発 これからの教育」で紹介された「グローバル・リーダーの育成」は、公立校でも工夫して実践すべきではないでしょうか。特に、卒業時の研究論文は、教員の思い1つで取り組めると思いました。[福岡県/H中学校]

◎特別企画の「～英語教育で大切なこと」にあった「中学校で英語を使う機会を増やし…」というのは同感ですが、「何に使うのか」「使えたらどうなるのか」を生徒にイメージさせるのは難しい面もあります。修学旅行を英語圏にする、ALTの派遣数を増やすなどの方策を試行できればと思いました。[千葉県/K中学校]

◎「ミドルリーダーの挑戦」で、学び合いを目指して試行錯誤し、生徒の指摘で挫折したという高塚将吾先生が、学び合いに再挑戦し、異学年・全校へと発展させようとしている点に感心し、その実践に驚きました。「理念を丁寧に伝え、生徒が取り組みたくなるような課題を設定し、生徒の気持ちに寄り添った支援」の具体的な内容を知りたくなりました。[長野県/I中学校]

◎「色とりどりの学びの情景」で紹介されていた、宮城教育大学附属中学校の「総合的な学習の時間」の計画は理想的だと思いました。3年間掛けて、教室での学びを超えて、活動範囲を広げながら、生徒が自身の生き方を考え、実践力が育てられる。「総合的な学習の時間」の本来の趣旨そのものだと思いますし、本校も少しでも近づけたらと、考えさせられました。[富山県/F中学校]

編集後記

今号の特集は、前号の「広がる学力格差」への対策として、「学び合い」の次に有効という意見が多かった「家庭学習指導の充実」を取り上げました。取材校でも、自学ノートや自習タイムの中で理解度に応じた「家庭学習指導」が出来ていましたし、授業と家庭学習を連動させることで、授業への参加意識が高まり、学習内容への理解度も上がった結果、成績が向上して学習意欲につながるといった好循環が起きていました。特集で取り上げた3校以外にも、家庭学習指導を工夫されている学校は全国にたくさんありましたので、BERD サイトでも紹介していきたいです。

『VIEW21』中学版編集長 草場隆志

VIEW21 中学版 2014 Vol.3

2015年2月27日発行/通巻第323号

発行人 谷山和成
編集人 小泉和義
発行所 (株)ベネッセホールディングス

印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンダコ
執筆協力 中丸満
撮影協力 荒川潤、川上一生、中尾桂介
イラスト協力 カモ、幸剛

◎お問い合わせ先

情報編集室
〒206-0033
東京都多摩市落合1-34
電話 042-311-3390

© Benesse Holdings, Inc. 2015

色とりどりの学びの情景

地元を愛する心



表紙の学校 埼玉県 さいたま市立大宮東中学校



大宮中部地区社会福祉協議会主催の「会食サービス」には、毎回、部活動ごとに4~6人が参加する。美術部はポストカードを描いてプレゼントしたり、吹奏楽部は演奏したりと、部ならではのイベントが好評だ

さいたま市立大宮東中学校は、地域と連携し、さまざまなボランティア活動を行っている。100歳の高齢者も訪れるという「会食サービス」は、2002年度から同校を会場に毎月第2土曜に開かれる。生徒は校門で参加者を出迎え、その手を取って会場まで案内し、一緒に昼食を食べる。また、「ふれあいのつどい」は、幼稚園児から大人までがゲームなどで交流するイベントで、生徒はけん玉やゲームなどの支援員を担う。



大宮区防災訓練に参加。地域の人たちと協力し、アルファ米の用意や仮設トイレの組み立てなどを体験した

地域の運動会では、ボランティア競技役員として競技の進行補助や放送係などを担った



地域の清掃ボランティアでは、植え込みの中まできれいに掃除。「ぼい捨ては駄目だとよく分かった」と参加した生徒は言う



多様な世代との交流は、学校生活だけでは経験できない、地域との一体感を生み出し、自己有用感を育む。「高齢者から、人生経験が豊富で為になる話を聞けました」「小学生にも大人にも楽しんでもらえてよかった」と、うれしそうに話す生徒たち。ボランティア募集には毎回たくさんの生徒の手が上がり、普段の生活でも道を歩く高齢者に手を貸す姿が見られるなど、何よりも「思いやりの心」が育まれている。

過去1年間の
特集テーマ

Back Number

2014

Vol.2 広がる学力格差への多様な取り組み

Vol.1 言語活動を通じて高める生徒の力——新教育課程の中間総括として

2013

Vol.4 社会を生きる力を育む——キャリア教育の視点で教育活動を捉え直す

Vol.3 1人で学べる生徒を育てる

すべての記事をウェブサイトからPDFでダウンロードいただけます

<http://berd.benesse.jp> または で